



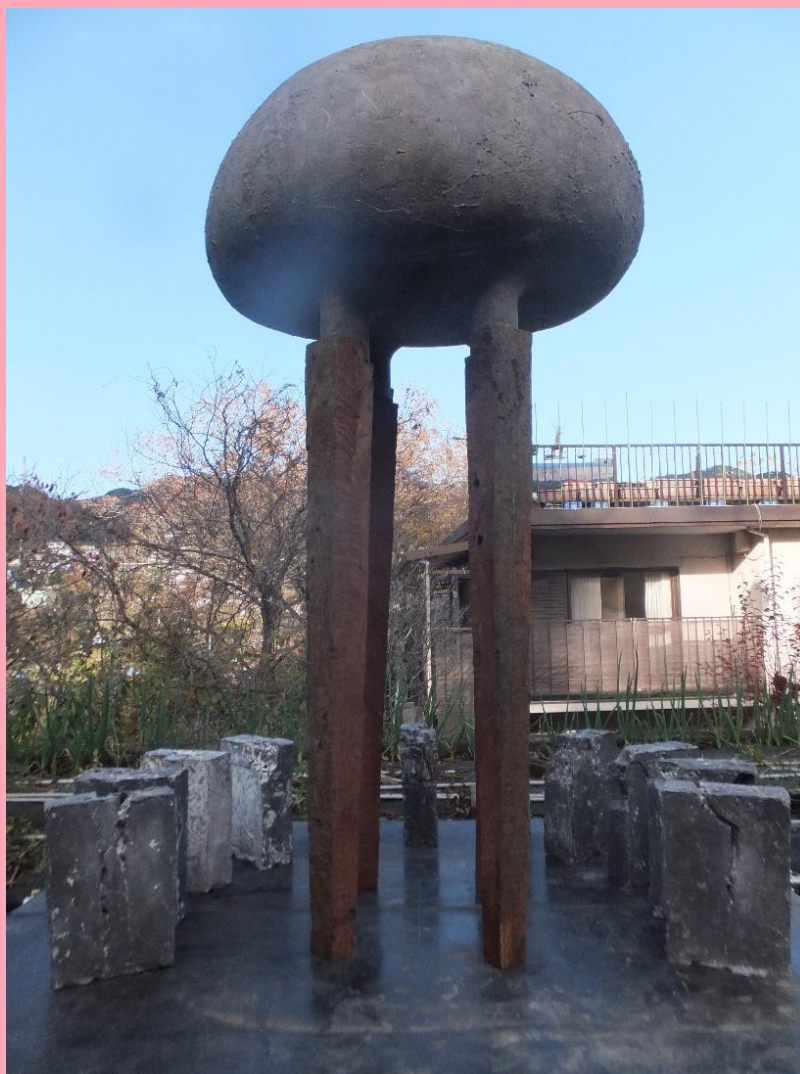
いずみ

No.82

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 52



《祈り—再生》

橋本 諭

(2 ページに「作者の言葉」)

自作自選 52

作者の言葉

文明の興亡には始まりと結末（原因と結果）があり、利益を追求する人・企業・国家と、不利益を被る側が必ず存在する。地球温暖化もウクライナへの軍事侵攻も、裏で民族浄化を行う行為も止めることができない人類の地球と都市の姿がみえてくる。

（相模原市在住、全道展会員）

タイトル：祈り—再生

制作年：2022 年

素材：ユーカリ材、ポリエス
テル樹脂

サイズ：H240×W170×D120 cm

設置場所：作者自宅

連載

宮の森の四季 52

本郷新記念札幌彫刻美術館

声

業務係 菊地 紫乃

「こんにちは」「見ていいですか」と小中学生がやってきます。お友達と一緒に、時には家族の案内役として。

美術館のご近所の札幌・三角山小学校の児童は授業の一環で彫刻美術館をたびたび訪れます。また、札幌市内の小学 5 年生は「ハロー！ ミュージアム」という活動で来館し、鑑賞の仕方や美術館の特徴などを館の職員や協力員の方々から学びます。「ハロー！ ミュージアム」では、芸術の森美術館・子どもアトリエ・彫刻美術館すべてを巡ると「彫刻鑑賞ノート」をもらえるスタンプカードを配布。このカードを手にとって来る子を迎えるのも嬉しい瞬間です。

小中学生がふらりと来てくれる美術館っていいなあ、と思います。

「見ている人の邪魔をしない」という鑑賞ルールを守り、静かに、思い思いに過ごしている様子の中、「わくわく」や「これはなんだろう？」「初めてみた」「これ、知ってるよ！」などの静かな感想の声や空気が受付にも伝わってきます。この「静かな中で伝わる楽しさ」を受け取る時間がとても好きです。

一方、展示替期間中の美術館はいつもと少し質の違う静けさです。作品のない、空っぽの展示室。少し冷たくさえ感じる空気。作品にはぬくもりがあります。声を出さぬ彫刻ですが、何となく心の中で話しかけてしまうのは、美術館に勤める者のあるあるでしょうか。

「彫刻美術館入口」のバス停から彫刻の道を上る途中、一本松の下にある「奏でる乙女」像。通勤路ですっかり顔なじみの彼女にも「暑いね」「雪、重いよね」などと、そっと挨拶をする日々です。

私と彫刻の出会い

北大大学院生

今野 照美

私は小さい頃より芸術が好きでしたが、それは主に絵画でした。私の母が絵を描くのも見るのも好きだったため、弟と二人(母も含め3人)で家にいるときはリンゴを見ながら全員で絵を描いたり、有名画家の絵を鑑賞するために出かけたり、それらすべてが楽しい思い出です。例えば、絵画や彫刻が情操教育に役立つというノウハウはどうでしょう？ もし、親がいやいや子供の教育のために美術館を訪れたらそれは楽しいものではきっとなくなることでしょう。

話はそれでしたが、私と彫刻の重要な出会いは札幌芸術の森でボランティアの彫刻解説員を始めた時からです。私は札幌の手稲区に住んでいるため、南区はあまりにも遠く、芸術の森に行くこともなく、野外彫刻があることも知らないぐらいでした。たぶん、札幌市に住んでいる人でも屋内美術館に行ったことはあっても、屋外彫刻を見たこともない人も結構いると思います。中学校時代の担任の先生が美術教員だったため、同窓会をしたときに私の仕事の話になり、それは彫刻ボランティアになるともっと美術の勉強ができますと言ってくれたので、よくわからないまま飛び込みました。先輩や同期は札幌芸術の森の彫刻を愛し、命を削っているような人たちばかりでとても気後れしたのを覚えています。

そのころの研修はとても厳しく、73点の作品解説の筆記試験のようなものがあり、真っ赤になって添削されることもあって、今となっては懐

かしい思い出です。子供が生まれ、一度はボランティア活動をやめたのですが、また復帰。「ちえりあ」で開催された札幌市のボランティアネットワークの活動報告のイベントを手伝っていた時、「会員になりませんか」と友の会の斎藤美年子さんに声をかけられ、今に至っております。数年前まで、会報の発送をお手伝いしたりしたこともありましたが、忙しく、現在は何もお手伝い出来ず申し訳なく思っています。

「まちづくり」という点では私が小学6年生の時に、札幌のまちづくりについて書いた短い文章が新聞に掲載されたことがあります。それは、すべての公衆電話ボックスの中にお花を一輪でも置いてきれいな街にしたいというもので、今考えればとても稚拙ですが、札幌が好きな気持ちは今も変わりません。

友の会の活動はとても素晴らしいです。芸術の森のボランティアも頑張っています。前札幌市長の上田文雄さんが公約通り、札幌市の小学生のハローミュージアムやハローミュージックの機会を作って定着しているため、小学5年生は必ず市内の美術館で課外活動があります。

その5年生が育って、受験勉強ではない、心のよりどころとして市内の彫刻を鑑賞したり、磨いたり、美しい彫刻のある街としての札幌をこれからもずっと好きでいてほしいです。そのために、私たちは何ができるのでしょうか。ボランティアの若い後継者を育てることが出来るでしょう。

野外彫刻が「街なかの美」であり続けるために

会員 石川 さわ子（札幌市議会議員）

「街なかの美を守ろう！」と地道に、そして専門的な「友の会」の活動に敬意を表します。札幌においては大通公園など四季折々の美しい自然環境を背景に、数多くの野外彫刻が設置されており、「街なかの美」として市民や観光客に豊かな潤いをもたらしています。美術館や博物館に出向かなくても、公園や道端で見たり、触ったりできる野外彫刻は誰にとっても身近な芸術だと思います。

しかし、雨、雪、風、凍結、鳥の糞など野外ならではの影響を長年にわたって受け、劣化している野外彫刻の補修・保全は喫緊の課題です。橋本前会長をはじめ、役員の方々の熱い思いを伺い、清掃作業や彫刻補修の現場にも立ち合わせていただく中で、こうした課題を行政と共有する必要性を強く感じ、2016年、19年、20年の予算や決算の特別委員会等において、野外彫刻の保全を求め質問してきました。

この間、札幌市は、市が管理する415点の野外彫刻の保全調査事業を行い、彫刻の損傷の度合いや必要な補修項目を把握するとともに、倒壊や落下等のおそれが高く、早急な対応が求められる作品の有無について調査し、管理台帳に集約しました。この結果、野外彫刻の老朽化の深刻な状況を行政も把握するところとなり、2020年度から22年度にかけて調査及び補修・移設等として3,000万円が予算化されました。2023年度に向けた文化部の補修・移設等の予算要

求は1,600万円であり、市長査定の後、今年2月から3月にかけて開かれる第1回定例議会に議案として提案されます。このように野外彫刻の補修が継続して予算化されるようになったことは評価できますが、市役所の庁内連携や「友の会」との情報連携にはまだ課題があると思います。

「友の会」では定期的に札幌市の文化部やみどりの管理課と意見交換等を行っていますが、その事とは別に、有識者による野外彫刻維持保全検討委員会の、なるだけ早い時期の設置を長年重ねて要望して来ました。「友の会」として札幌市に要望してきたことは、「清掃や補修、保全の技術を共有し、誰もが対応できるように、手法を標準化するとともに、技術を伝え、地元施工業者を養成していただきたい」ということであり、議会でも要望してきました。

野外彫刻の修復は、通常の工事などとは異なり、その芸術性を損なわず、かつ、寒冷地特有のノウハウを持って施工することが求められています。今後、若手の芸術家が彫刻をつくる意欲にもつながるとも聞いておりますし、補修の技術や作家との関係性においても、「友の会」と協力して取り組みを進めていただきたいと思うところです。また、補修においては計画を作るなど管理体制づくりも課題です。

野外彫刻がパブリックアートとして大切にされ、次代に引き継がれていくためにこれからも共に活動していきたいと思います。

「南区芸術祭」ってなに？

編集者／ライター／フォトグラファー 吉村卓也

昨年の9月3日から25日まで、札幌市で「南区芸術祭」が開かれた。これは南区の区制50周年を記念して行われたもので、南区を「アートのまち」にしようというスローガンのもとに、南区役所が主催して行われた行事だった。

この芸術祭の実行委員会のメンバーとして関わらせてもらった。私は関東のとある県出身だが、26年前に北海道に来て以来、ずっと札幌市南区に住んでいる。とにかく、住んでいて気持ち良いところであるが、人口減や高齢化が区の「問題」として取りあげられることが多い。人口減や高齢化は日本全体が避けて通れないものであり、その意味で南区は時代を先取りした「最先端」の場所なのだ。右肩上がりにはならない社会の中で、それでも心豊かに幸せに暮らすために、芸術の果たす役割はとても大きい、と私は思っている。

札幌には国際芸術祭があるけれども、それとは違った、もっと手作りのこじんまりとした、Down to Earth（気取らない、地に足のついた）なものにしたいと考えた。ビッグネームなアーティストを呼ぶのではなく、ご近所の芸術家たちが参加して、地域を盛り上げるものにしたいものと実行委員会で話し合った。

南区には、芸術の森がある。真駒内公園には札幌オリンピックの時に作られた多くの野外彫刻もある。PMF も行われる。芸術家も多く住んでいる。自然が豊かで、程よい田舎感のある環境、家が建て込んでないから、少々音を出しても大丈夫、そんな環境がアーティストたちを引きつけるのかもしれない。身の周りに芸術家がいるのは良いものだ。

そして、この芸術祭の総合ディレクターとして、当会の顧問でもあり、石山緑地を作った芸術家集団「サンク」のメンバーでもあった國松明日香さんが参加した。旧真駒内緑小学校で、

期間中にいろいろな展示が行われ、ワークショップも開かれた。真駒内駅には相川みつぐさんのミューラル（壁画）が描かれた。

9月25日の最終日、フィナーレは石山緑地だった。この緑地は、軟石の採石場跡に作られた、それ自体が彫刻作品のような公園だ。円形劇場のような、地面に潜っていくような軟石の石段「ネガティブマウンド」で、ミュージシャンたちがいろいろな音楽を奏でた。そして、日没後、最後の演目はラベルの「ボレロ」だった。

篝火（かがりび）を焚き、参加した音楽家たちがボレロを奏で、ダンサーの菊澤好紀さんが曲に合わせてボレロを踊った。スポットライトを当て、軟石の壁に映し出されたダンサーのフォルム、篝火の揺れる灯、動く巨大な影がなんとも幻想的な風景を作り出していた。

50周年の区切りに行われた芸術祭であるが、「南区をアートのまちに」というプロジェクトは継続的に続けられる予定だ。来年も、きっと何かが行われるはずだ。担い手たちも若い人たちに移っていくことだろう。この手作りの芸術祭が、これからも受け継がれ、「アートといえば南区」という認知が高まり、人口が減っても、ビルは建たなくても、リゾートはなくても、精神的にリッチな生活を送れるということを証明したいと思う。

オリンピックから半世紀が経ち、南区のシンボルともいえる真駒内公園にある野外彫刻の数々の、メンテナンスの問題も出てきている。当会の行っている野外彫刻の清掃・保存活動はますます出番が増えるのではないだろうか。

こんな活動をきっかけに、イベントだけに頼らない「アートのまち」ができないものかとも考えている。

友の会ニュース

スマホで彫刻の解説を見る

「アートナビサッポロ」運用開始

友の会が彫刻データ情報提供

スマホで街角の彫刻を撮影すると画面に制作者、材質、作品解説などが表示されるアプリ「Art navi Sapporo」(アートナビサッポロ)を札幌市内の広告代理店「参栄」が開発、昨年10月からサービスが始まった。彫刻のデータ情報を友の会が提供している。

札幌市市民文化局が「参栄」からの要請に応じて友の会を紹介したことから、彫刻データの情報提供の話がまとまった。

友の会がこれまでに収集した「北海道デジタル彫刻美術館」のデータを提供するもので、現在は札幌市内中心部にある彫刻約100体が対象だが、将来は全道に広げたい意向。



武蔵野美大黒川教授を迎え

屋外彫刻のメンテナンスを学ぶ

美術館と友の会がセミナー共催

屋外彫刻の補修・保全の第一人者、武蔵野美大の黒川弘毅教授を講師に本郷新記念札幌彫刻美術館と友の会共催の「屋外彫刻のメンテナンスを学ぶ」セミナーが昨年10月1日、同美術館で

開催された。

黒川教授は札幌・中島公園の《木下成太郎像》の修復指導などで友の会とは交流が厚く、会の活動面でも縁が深い。

今回は講演と実習の二部構成。「彫刻メンテナンスの意義—触覚鑑賞の機会として」をテーマにした講演では、さまざまな視点から鑑賞できる彫刻と、視点が限られる絵画との鑑賞の仕方の違い。また、彫刻を洗うことは触覚鑑賞の機会となり、彫刻を楽しむという鑑賞の原点になっていると強調。子



供たちの彫刻清掃の様子などをスライドで紹介して、彫刻の洗い方、その意義をわかりやすく解説した。

引き続き、美術館前庭での実習では、《わだつみの像》など3体で洗剤での洗い方、蜜蝋やワックスの塗り方、顔の凹凸、筋肉の流れを意識した光沢の出し方などを指導した。また、視覚障がいのある参加者が彫刻に水を流しながら手で触る触覚鑑賞の実践も行った。

セミナーの様子は朝日新聞北海道支社の「プレミアスプレス」

219号(22年11月21日発行)に友の会の活動特集として掲載された。

埼玉・川口の岡宮美術

《泉》像など補修・修復

札幌市が依頼

ひび割れや穴あきなど大通公園の野外彫刻の点検、補修、修復作業が昨年10月18日から28日にかけて、埼玉県川口市の美術鑄造業・岡宮美術の手で行われた。札幌市が発注した。



作業が行われたのは《泉》のほか《牧童》《黒田清隆像》《ホーレス・ケ

プロン像》4体。

《泉》《牧童》はひび割れが激しく、硫黄と塩化アンモニウムの水溶液を塗布、亀裂個所の溶接などを行った。また、ケプロン像などは高所作業車を使い、像の揺れなどの点検をした。

作業には友の会から橋本信夫名誉会長、高橋大作会長が立ち合い作業を見守った。

彫刻美術館「サンクスデー」

前庭の彫刻 3 体を清掃

友の会が支援

本郷新記念札幌彫刻美術館で昨年 11 月 3 日、恒例の「サンクスデー」が開かれ、友の会も参加者と一緒に前庭にある彫刻清掃の支援をした。

この日は雨模様の心配な天気



だったが、何とか曇り空の下、子供 2 人を含む家族連れや若い男女約 10 人が参加した。「洗って味わう彫刻のカタチ」をテーマに普段触ることのない彫刻の凸凹や本郷新の創り出す手触りを楽しみながら、前庭の《裸婦》《堰》《砂》の 3 体の彫刻を洗った。

芝生に座った像では足の裏などが汚れていたが、洗い終え、布で磨いて美しくなった像を見て達成感を味わったひと時となった。10 月にワックスがけをした《ライラック像のトルソー》に水をかけ、水がはじける様子を見て男の子たちが「僕もかけたい」と飛び入りするなど友の会のメンバーも市民との交流を楽しんだ。

北海道の銅像秘話探索

「こうしてできた北の銅像」出版

街角でよく見かける銅像が何故そこにあるのか、どうして建てられたのか—そんな銅像の誕生秘話を紹介した「こうしてできた

北の銅像」(柏艸舎発行、1、500 円)が昨年秋、出版された。著者はフリーライターの小沢信行さん(札幌・南区在住)。

道内各地の銅像を巡り歩き、その建立の目的、建立までのエピソードなど関係者の労苦を丹念に取材した労作。

札幌のクラーク、黒田清隆、木下成太郎をはじめ、榎本武揚、伊達邦成、高田屋嘉兵衛、依田勉三など全道各地からおなじみの人物像を取り上げている。それぞれ写真と共に建立当時の新聞記事、建設趣意書などの資料をつぶさに検索した。巻末に銅像一覧表も。

自費出版のため 1 月まで紀伊國屋書店(本店、新札幌店)で扱っている。

クラーク像作者

田嶋碩朗遺作展

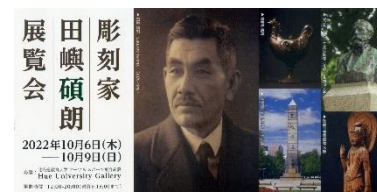
道内では 87 年ぶりの開催

北大構内の《クラーク像》の作者として知られる彫刻家・田嶋碩朗遺作展が昨年 10 月 6 日から 9 日まで札幌・中央区の道教育大アーツ&スポーツ文化施設 Hue Universal Gallery で開かれた。



田嶋の娘で 97 歳になる山崎貞子さんが「最後にもう一度、父の彫刻を伝えたい」と熱望したことから道内では 87 年ぶりに開催されたという。友の会会員の村上彩子さんは貞子さんの孫にあたる。

遺作展にはクラーク博士の小



胸像ほか《千利休座像木彫》《鳳香炉铸造》など 60 点ほどが出品された。

田嶋は福井県出身で東京美術学校(現東京芸大)卒。人物像など精巧な作品で知られるが、大通公園の《聖恩碑》、帯広の《依田勉三像》などを手掛けた。

展覧会の模様は道新でも紹介され、観覧した友の会の高橋大作会長がクラーク像に「志を持つ目と強そうなひげから人格がしのばれる」としたコメントも掲載された。

2023 年友の会新年会

◇日時:1月21日午前 11 時

◇会場:ネストホテル札幌駅前
(中央区北 2 西 2)

◇特別講演

彫刻美術館館長・吉崎元章氏
コロナ感染状況で中止もあり

ご協力ありがとうございました

79 号掲載後の寄付者

吉田 捷子さん(札幌)

大西美智子さん(札幌)

寄付金累計 14 万 5000 円

事務局日誌▼10月1日＝「屋外彫刻のメンテナンスを学ぶ」セミナー（彫刻美術館）▼13日＝定例役員会（エルプラザ）会報82号企画など▼14日＝参栄「アートナビサッポロ」運用開始の記事が道新に掲載▼18日＝埼玉・岡宮美術が《泉の像》など点検、補修。28日まで▼24日＝市公園管理課へ彫刻周辺の樹木せん定、木下成太郎像の解説版設置を要請▼11月3日＝彫刻美術館「サンクスデー」開催に友の会が支援▼10日＝定例役員会（エルプラザ）新年会日程など▼24日＝彫刻ガイドブック編集（エルプラザ）

編集後記▼2018年から2年にわたり、医療雑誌「ケア」に連載した「さっぽろ野外彫刻美術マップ」を冊子化するため数人のグループで編集作業に取り組んでいる。本づくりなど素人ばかりで、なかなか思うように進まず、悪戦苦闘中だが、年度内発行を目指している▼PDF化した掲載面から原稿を取り込み、再レイアウト、ガイドブック用に作品を地域別に並べ替えるなど、なかなか手数がかかる。まだ頂上が見えない状態だが、何とかものにしたいとの思いで新たな年を迎えた。

（大内）

札幌彫刻美術館友の会
会報「いづみ」 No.82
2023年1月1日発行
発行人 高橋 大作
編集者 大内 和
（札幌市清田区清田5-4-6-30）
011-884-6025
印刷 山藤三陽印刷

会報「いづみ」82号 目次

自作自選52 《祈り—再生》	橋本 諭	表紙
宮の森の四季52 「声」	菊地 紫乃	2
風見鶏「私と彫刻の出会い」	昆野 照美	3
寄稿「野外彫刻が“街なかの美”であり続けるために」	石川さわ子	4
寄稿「『南区芸術祭』ってなに？」	吉村卓也	5
友の会ニュース		6-7
「アートナビサッポロ」運用開始／屋外彫刻のメンテナンスを学ぶ／岡宮美術が《泉の像》など補修／彫刻美術館「サンクスデー」／「こうしてできた北の銅像」／田嶋碩朗遺作展／新年会予告／寄付事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか		
		8

本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

本 館

■New Eyes 視線のはなし

開催中～4月16日

若手作家の育成を願った本郷新の想いを受け、2012年より開催しているシリーズ展。北海道、札幌を拠点に活動する美術家を中心に、我々を取り巻く世界を見つめる作家たちの新鮮な視点を紹介する。

記念館

■コレクション企画展

本郷新の言説

開催中～4月16日

芸術論、作品論、風土論など多くの文章を出版や手記を通じて遺した本郷新。本展では、それら言葉や思想をなぞっては、彫刻や絵画に立ち返り、言説と造形との関係を検証することを試みる。

■さっぽろ雪像彫刻展2023

1月27日～1月29日

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください

<https://sapporo-chokoku.jp>